

令和6年11月30日発行



五小だより

学校だより 12月号
東久留米市立第五小学校
校長 古矢 美雪

学校創立60周年記念
12月の「けやすけ」

60周年の学習と深くかかわらせた学芸会

校長 古矢 美雪

先日の学芸会には、多くの保護者の皆様、地域の皆様にご来校いただき、子供たちに大きな拍手を送っていただきまして、ありがとうございます。おかげ様で、どの学年の子供も、もてる力を存分に発揮し、最高の演技となりました。

今年度は学校創立60周年の記念の年ですので、学校の教育活動を60周年を意識しながら行っています。学芸会も例外ではありません。各学年、五小の歴史について調べたこと、生活科や総合的な学習の時間で体験や経験をしながら学んできた地域の特徴とよき、そして校歌の歌詞をつくってくださった谷川俊太郎さんのこと等を劇の中に盛り込んだ、五小オリジナルの台本で臨みました。

一年生は『えんそくにいくんだ』を演じました。生活科の校外学習とも兼ねて実際に行った「西東京いこいの森公園」への遠足で、どんぐり拾いなどをして感じた秋の様子も登場しました。二年生の『長い長いお医者さんの話』は、病気になった久留米第五王国のお姫様が、きこりが木を切ってくれたおかげで、暖かい日の光や落合川の清流を目の当たりにできたことで快癒しました。六月に生活科の学習で、実際に落合川で川遊びをしたことが盛り込まれました。三年生は『どろぼう学校』を演じました。どろぼう学校の生徒の「ボランティアグループ」は、六仙公園の雑草を取ったり、空き缶やペットボトル拾いをして、どろぼう学校の先生に怒られていましたが、この場面も授業の中で六仙公園へ行って体験したことに基づいています。四年生は『アラジン』の冒頭で落合川の景色の場面が登場しました。総合的な学習の時間の中で調べたり実際に川を訪れて知った川の中の生き物、絶滅危惧種のことなども話題にしていました。学芸会前には、落合川の清掃活動も行いました。五年生は『五小・キャッツ』の最後の場面でどこからともなく、谷川俊太郎さんが作詞してくださった校歌が聞こえてきました。歌詞に込められた谷川さんの思いを、猫たちが口々に話していました。六年生は『本当の宝物は』を演じました。その中の「けやき国」が落合川に川遊びに行く場面で、このけやき国では、自然を自分たちの力で守りながら生活してきた歴史を演じました。

このように学芸会でも、今年度の学校の教育活動のキーワード「愛校心」「地域愛」を意識しながら学習してきたことも盛り込みながら、一つのことを皆で創り上げる経験ができました。

先日、60周年への取り組みのもう一つの核として皆で親しみながらその作品を学んできた、谷川俊太郎さんが、ご逝去されました。心からお悔やみ申し上げます。

とても残念でありませんが、谷川さんが遺してくださったものは、大きな宝物です。谷川さんが作品にこめた思いを後世に受け継いでいくのは、子供たちや私たち大人です。

今週の月曜日の全校朝会では、天国の谷川俊太郎さんに感謝の気持ちをこめて、全校児童と教職員全員で、校歌を歌いました。ビデオメッセージを寄せてくださった時に、「楽しみながら歌ってほしい」という、谷川さんの思いを受け継いで、歌いました。学校では、校歌を歌う場面が一年間に何度かあります。入学式や卒業式・始業式や終業式・運動会等です。今後も校歌を歌う時には、歌詞の意味をかみしめながら、楽しみながら歌いついでいきたいと思ひます。